

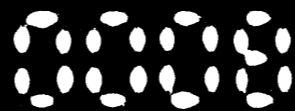
1
勞農側利權調査隊ニ關スル件

MT

1710371

002

1-1966



五

昭和十四年九月廿一日

本港港務大臣

大正十四年九月廿一日

島田領事代理

第七九號

ヨリ成ルル農例糾権調査委員到着ス

MT

1710371

003

1-1966

7335
(平) 22/23

本港
着發

大正十四年七月三十一日
前
右
四
一
〇

幣原外務大臣

鳩田總領事代理

第 一 七 一 号

利權委員會委員

Musator 氏 廿六日頃 三菱

動機船ニテ南樺太、エストリニ至リ、同地ヨリ便船ニテ

小樽經由、東京露國大使館へ赴キ、帰國スル由ニ付、査

證ヲ與ヘ置ケリ。



出
行
札
付
印



MT

1710371

004

1-1966

友

7387 平 2分 亞港 翠
本省 眉
大正五年七月二十二日
前一。 一。
右四。 一。

主 友 通 三

幣 原 外 務 大 臣

島 田 統 領 事 代 理

第 一 七 二 号

結 實 第 一 七 一 号 二 閣 記

「ムサト」氏ハ天候ノ關係上発動機前進不能ニ
後戻リシニ三日ノ京城丸ニ連絡不能ナルニ於テハ予定
ノ期日ニ「ムサト」君不能ナルノ理由ニ依リ本邦行ヲ
見合タルニ付右様申了承請フ



MTI

1710371

005

1-1966

電信課長
電信案

(丙號用紙)

電報
平文 發電大正十四年七月二十四日 午前四時五分 送電番號 四八二二 奉天經由
長春經由

主 管 歐米局長
主任 歐米課
(起草大正十四年七月二十四日)

受信 人名 在莫斯科 田中大使
發信 人名 幣原大臣

件名 芳農利權委員會委員ムサトフ
未詳中止ニ因ル件
級名 芳農利權委員會委員ムサトフ

第二〇二號

北洋大臣出化中ノ利權委員會委員ムサトフハ三
菱動機船ニテ南洋大臣ニ至リ同地ヨリ便船ニテ小樽
經由 東京 芳農大臣館ニ送テ上 歸國スル趣ヲ

電信案 外務省

(乙號用紙) 國納

以テ查證ヲ求メ来ルヲ以テ我方ニテハ 通國ノ便宜
供ト方手配中ナリシニ 其後同氏ハ 天候ノ關係上
菱動機船前進不能ニテ 後戻リシ 當船供給ニ建
辦不能ナルニ於テ 豫定ノ期日ニ 莫斯科着不能ナ
ルノ理由ニヨリ 本邦領事館ニ於テ 二十三日 島田
ヨリ電報アリタリ 柳巷等迄

外務省

MT 1710371 007

MT 1710371 006

1-1966

電信課長

大臣

次官

官信

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 對支文化

件名	
綴込名	

亞細亞

亞港

大正五年七月二十七日

幣外務大臣

島田領事代理

第一七四號

利權調査隊長、フジアコフ及委員、クリストホフイ
 多、サート、ト、等ノ本官ニ対スル談話ヲ綜合スル
 油田ニ関シ此辰合ハ開放的態度ニシテ充分露
 國側地質學者ノ調査智識ヲ利用シ善シルモ炭田
 ニ関シ三菱ハ頗ル秘密主義ニテ此ノ真却テ三菱
 ノ為不利益ナニ思フトテ油田ニ対シ好感ヲ表
 シ炭田ニ関シ亞港以南ノ地方ハ充分實地調査ヲ
 行ヒタルモ亞港以北ハ地質モ複雑ナラズ旧来ノ

大正五年八月八日 係接受

MT

1710371

008

田中

調査資料ニテ充分ナルハ今回ハ難ト調査セルノ
 之故テ亞港以南ノ炭田ニ限リ日本側ニ提供セン
 トスルニアテズ利權府共ノ大眼目ハ地方ノ開発
 ニアルヲ以テ現存ノツリ炭坑ノ如キ亦油田モ
 一千万円ト云フガ如キ僅少ノ資本ニテハ到底満
 足ナル結果ヲ見ル能ハサル可シ依年々中不採掘
 スベキ最少限度ヲ約定シ大規模ノモノニアラザ
 レハ新可セサル積ナリト
 尚二十二日 コジアコフハ近ク陸路オハニ赴キ
 更ニ歸来シテ日本經由歸國ノ豫定ナルガ日本官
 憲ニ於テ余ノ利権ニ関スル調査資料ヲ檢閲スル
 コトナキヤラ恐ルト云ヘルガ同氏ノ出立ノ際ハ

MT

1710371

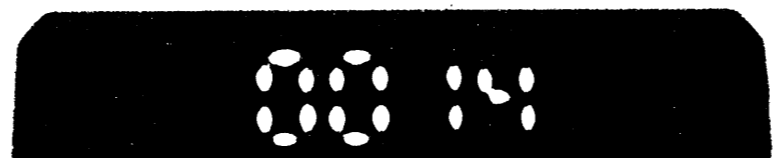
009

査證ヲ其ハ差支ナカルベク又調査資料ノ件何等
心配ナレト摸揆スル外ナシト思考スルモ為念何
分ノ儀濟内示ヲ精フ。

MT

1710371 010

1-1966



七五二四
暗八

亞港
本省署

大正十四年七月
二十日午前七時

幣外務大臣

島田征顯事代理

第一七四號

利権調査隊長フジアコフ及委員クリストホフイ
チムサートフ等ノ本官ニ対スル談話ヲ綜合スル
ニ油田ニ関シ地質會ハ開放的態度ニシテ充分露
國側地質學者ノ調査智識ヲ利用シ善シルモ炭田
ニ関シ三菱ハ頗ル秘密主義ニテ此ノ真却テ三菱
ノ為不利益ナシニ思フトテ油田ニ対シ好感ヲ表
シ炭田ニ関シ亞港以南ノ地方ハ充分實地調査ヲ
行ヒタルモ亞港以北ハ地質モ複雑ナラズ旧來ノ

MT

1710371

013

調査資料ニテ充分ナレバ今回ハ難ト調査セルノ
ニ敢テ亞港以南ノ炭田ニ限リ日本例ニ提供セン
トスルニアテズ利権附與ノ大眼目ハ地方ノ開発
ニアルヲ以テ現存ノツリ炭坑ノ如キ亦油田モ
一千万円ト云フガ如キ僅少ノ資本ニテハ到底滿
足ナル結果ヲ見ル能ハサル可シ然レバ中不採掘
スベキ最少限度ヲ約定シ大規模ノモノニアラザ
レバ許可セサル積ナリト
尚二十一日コジアコフハ近ク陸路オハニ赴キ
更ニ歸未シテ日本經由歸國ノ豫定ナルガ日本官
憲ニ於テ余ノ利権ニ関スル調査資料ヲ檢閲スル
コトナキヤラ恐ルト云ヘルガ同氏ノ出立ノ際ハ

MT

171037

査證ヲ興ヘ差支ナカルベク又調査資料ノ件何等
心配ナレト撥換スル外ナレト思考スルモ為念何
分ノ儀済内示ヲ請フ。

MT

1710371

014

1-1966

要再回

歐

文書課長

公 信 案

大正四年七月廿二日發

(甲號用紙)

文書課發送

大正四年七月廿二日

淨書

正校(原稿)

淨書

主 管 歐米局長

主 任 歐米第課

大正四年七月二十七日

附屬書

機密

普通

大正四年七月廿二日

日 附

通

通

受信 津野陸軍次官
大角海軍次官
四條高干次官

發信 津野陸軍次官
大角海軍次官
四條高干次官

件名 北「カレン」に於ける「方農利権調査」
隊長寺、陸任二目之「報告」區、件

縫 込 名 達 名 達 名 達
カレン 利権

本件「目」今般五亞港島田總領事代理より別
紙字「通」精款アリクニ付御参事迄ニ通報ス

(別添島田来電カ一七四号パラスレスノ合字添付)

公 信 案

外 務 省

MT

1710371

015

1-1966

七五二四
暗一

本署長

本署長

本署長

左馬込島田徳代氏

幣外務大臣宛電

島田徳代氏代理

(五十四年七月二十六日)

本署長

利権調査隊長

ヨシアコフ及委員、クリストホウイ

ニ油田ニ関シ北辰会ハ開放的態度ニシテ先分露

國側地質學者ノ調査智識ヲ利用シ善シルモ炭田

ニ関シ三菱ハ頗ル秘密主義ニテ此ノ真却テ三菱

ノ為不利益ナリニ思フトテ油田ニ対シ好感ヲ表

シ炭田ニ関シ亞港以南ノ地方ハ充分實地調査ヲ

行ヒタルモ亞港以北ハ地質モ複雑ナラズ旧来ノ

調査資料ニテ充分ナレバ今回ハ難ト調査セルノ

ニ取テ亞港以南ノ炭田ニ限リ日本側ニ提供セ

トスルニアラズ利権府共ノ大眼目ハ地方ノ開発

ニアルヲ以テ現存ノツリ亞炭坑ノ如キ亦油田モ

一千万円ト云フガ如キ僅少ノ資本ニテハ到底満

足ナル結果ヲ見ル能ハサル可シ依年々中不採掘

スベキ最少限度ヲ約定シ大規模ノモノニアラサ

レハ許可セサル積ナリト

尚二十二日、コジアコフハ近ク陸路オハニ赴キ

更ニ歸来シテ日本經由帰國ノ豫定ナルガ日官

憲ニ於テ本利権ニ関スル調査資料ヲ檢閲スル

探取計アリキニ中余アリ

MT

1710371

016-1

MT

1710371

016

査察ヲ興ス差支ヲカルルハ又調査資料ノ件何等
心配ナシト抄捺スル外ナシト思考スルニ為念何
本儀内示ヲ請フ。

MT

1710371

017

1-1966

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

人情

會計

文書

對支文化

類項號

件名
綴込名

次通

七四七暗一五 亞港渡 大正十四年七月廿六日 八月一日 后三〇日

幣原外務大臣 島田總領事代理

第一八四號

大正十四年九月三日 記録係接受

貴電第七三號三閱

アピアコフハ夫人同伴七月三十一日当地出發海
路ハイカル湾ニ至リ三日後ハオハニ着キ内地
ヨリ八月十三日出帆ノ北辰急備船ニ依リ大泊
向ノ著又オハヨリハ油用専門ノ技師ヲヨコライ
アバジフ及大学生アレクサンドルハルシチエ
ワスキトシニ名ヲ從ヘ計四名ニテ本邦經由一露
國大使館ニ立入ル莫斯科ニ歸還スル由ナルガ

MT

1710371 018

確信ナル鐵路及時日ハ無餘ニテオハヨリ本官ハ
通知ノ答本官ハアボルチニノ依頼ニ依リ四人ニ
對シ査証ヲ共ハ尚フ氏ニハ證明書ヲ附與シ置ケ
リ三十一日フ氏ハタリストホウイテ同伴本官未
訪ノ際露國政府ハ日本政府ト共ニ亞港ノ北部
ポロウインカノ手前ニ築港スルコトニ付協議ヲ
ナスベク利権ノ開發ハ大規模ニセサレバ意義ヲ
ナシズ申矣炭田ト南樺太トノ間ニハ鐵道ノ敷設
可能ナリアグネオ炭坑ノ試掘方法ニハ幾多ノ缺
失アリト云ヒ日本政府ガ果シテアグネオヲ推慮
シタルヤ否ヤニ付異味ヲ有シ尚勞農政府ハバイ
カル湾トオハトノ間ニ道路ヲ開通シテ尾港オハ
向ノ交通ヲ便ナラシメント計畫シツツアリト語
レリ。

MT

1710371 019

東方通信

八月三日第八號

ウラジアイ三日發東方通信

◎ 澤太調査隊引揚

澤太調査隊ブルゴルマススキー氏一行は昨日當地登ハバロフスク
經由モスコウへ向つたが同氏等は先發歸還するもので遺像も近
く澤太から引揚げると。

MT

1710371 020

1-1966

電信課長 (丙) 奉天經由 長春經由

暗號 發電大正十四年八月三日午後六時二分 送電番號 五〇〇七

主 管 歐米高長 任 主 第一課 (起草大正十四年八月)

受 信 人 名 左 藤 田 中 大 臣

發 信 人 名 柳 原 久 臣

件 名 フジアコウノ事 第二一六號

此後

利権調査局長 フジアコウノ石油
松野 其他ニ知合件 有り
亞港 友ハハニ知合件 有リ
外務省

MT 1710371 021

乙 號 用 紙

大内ニテハ 貴部 石油 調査 局長
若シカ 今ハ 亞港 調査 局長
任 命 事 代 理 者 貴 部 副 長
御 前 共ニ 亞港 調査 局長
ノ 爲メニ 亞港 調査 局長
利 権 調査 局長 大 規 模
ヲ 行フ 中 央 官 廳 ト 協 同

MT 1710371 022

1-1966

郵船
改通

七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一年
八二年
八三年
八四年
八五年
八六年
八七年
八八年
八九年
九〇年
九一年
九二年
九三年
九四年
九五年
九六年
九七年
九八年
九九年
一〇〇年

幣原外務大臣
島田總領事代理

第一八四號

貴電第七三號三閱

アニアコフハ夫人同伴七月三十一日当地出發海
路ハイカル湾ニ至リ三日後ハオハニ着キ内地
ヨリ八月十三日出帆ノ北辰會備船ニ依リ大泊
向ノ著又オハヨリハ油田専門ノ技師ニユライ
アバゾア及大学生アレクサンドルハルシケエ
ワスキリノ二名ヲ從ヘ計四名ニテ本邦經由一露
國大使館ニ差入ル美斯科ニ歸還スル由ナルガ

MT 1710371 024

確實ナル経路及時日ハ無餘ニテオハヨリ本官ハ
通無ノ答本官ハアボルチンノ依頼ニ依リ四人ニ
對シ査詰ヲ共ハ尚フ氏ニハ證明書ヲ附其ニ置ケ
リ三十一日フ氏ハタリストホウイテ同伴本官未
訪ノ際露國政府ハ日本政府ト共ニ亞港ノ北部
ホロウインカノ手前ニ築港スルコトニ付協議ヲ
ナスベク利権ノ開發ハ大規模ニヒサレハ意義ヲ
ナラズ中央炭田ト南樺太トノ間ニハ鉄道ノ敷設
可能ナリアグネオ炭坑ノ試掘方法ニハ幾多ノ缺
失アリト云ヒ日本政府ガ果シテアグネオヲ推慮
シタルヤ否ヤニ付興味ヲ有シ尚勞農政府ハバイ
カル湾トオハトノ間ニ道路ヲ開通シテ尾港オハ
間ノ交通ヲ便ナラシメント計畫シツツアリト語
レリ

(後)

MT 1710371 025

1-1966

文書課長

文書課發送

正(原稿) 淨書

主 管 歐米高

主任 歐米高

起草 大正十四年

月三日

附屬書

通

機密 第一

號 大正十四年八月七日附

附屬書

通

受信 人名 湯淺内務次官

發信 人名 出淵次官

件名 勞農利権調査隊長 フジア
コフ 來邦ニ関スル件

送達 姓名 出淵次官

本件ニ関シ先般在亞港島田總領事代理來電ニ基キ貴省ト御打合ノ結果同總領事代理ニ對シ「フジアコフ」ニ査証ヲ與ヘ差支ナキ旨及帝國

公 信 業

外 務 省

MT

1710371

026

(乙 號 用 紙) 圓 納

官憲ニ於テ同人ノ携有スル調査資料ヲ檢閲スルコトナキヤノ憂慮ニ関シテハ大体心配ニ及バカルベシト回答シ差支ナキ旨回答シ同時ニ同人來邦ノ時日及經路確メ方電訓致置キタル處今般同總領事代理ヨリ「フジアコフ」ハ七月三十一日夫人同伴亞港出發海路「バイカル」灣ニ至リ三日後ニ「オハ」着同地八月十三日出帆ノ北

外 務 省

MT

1710371

027

1-1966

乙 號用紙 國納

辰會傭船ニテ大泊ニ向フ筈ニシテ尚「オハヨリハ
油田専門技師」ニコライ、アバツフ及大學生
「アレクサンドル、バルシチエフスキー」ノ兩名ヲ伴ヒ一
行四名ニテ本邦經由露國大使館ニ立寄りタル上
莫斯科ニ歸還ノ豫定ナルが更ニ確實ナル時日
及經路ハ「オハヨリ無線」ニテ同總領事代理ニ通
知ノ手筈ナル旨電報アリ尚同總領事代理

外務省

MT 1710371 028

乙 號用紙 國納

ハ前記四名ニ對シテ入國査証ヲ與ヘ且「フジヤ
コフ」ニハ特ニ證明書ヲ附與シ置キタル趣ニ付委
由右~~付~~御了悉^加上^加同人ノ取扱ニ関シテハ前述
御打合ノ真ヲモ御考慮^上ス^上ル様教度^可然^也
御取計相成度

外務省

MT 1710371 029

1-1966

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 對支文化

7956
(日) 24

件名	
綴込名	

本省有 大正十四年八月七日
八月七日 午後七時

幣原外務大臣 島田總領事代理

往電第一八四號
「ジャコフ」ハ當地革命委員長
給ノ証書ヲ携行セル事今回美
斯科政府ハ右証書ヲ公用紙
シテ承認セル付日本側ニ於テモ右
標印承認有リ度為七日「アホル
コ」通知アリタリ。

MT 1710371 030

友

7956

(晴) 24

本 匪 港 署 有 看

大正十四年八月

七日 右六三五
八日 右〇七

中華書局刊行

11

電

幣原外務大臣 島田總領事代理

第一九五號

往電第一八四號ニ昇シ

己
己
己

「フジヤコフ」ハ當地革命委員長等
給ノ証以書ヲ携行セル処今回美
斯科政府ハ右証以書ヲ公用紙ニト
シテ承認セルニ付日本側ニ於テモ右同
標印承認有リ度 爲七日「アボルケン」
ヨリ通知アリタリ。

MT 1710371 031

1-1966

要旨

1/25

文書課長 長 檢印

大正十四年八月

(甲號用紙)

文書課發送

淨書

正校(原稿) (淨書)

主管 歐米局長

主任 歐米局長

大正十四年八月

拾日發送済

機密

大正十四年八月

14日附

附屬書

通

受信人 陸軍省 陸軍省 海軍省 海軍省 商工省 商工省

發信人 欧米局長

件名 北樺太油田及山灰田ニ関スル
ホレゾナイノ謾談ニ関スル件

級 北樺太利権

御参考ノ爲別紙送付ス

(大正十四年八月十七日麻在亞港公館來電 電話第一九三號寫並附屬書寫)

公 信 案

外 務 省

MT 1710371 032

1-1966

友

各社

要港

大正十四年八月十日

前小奉

幣外務大臣宛

島田總領事代理電

八月十日

少イヒ來訪

チヤエリ

降参

三

依リ吾日當地出資尾端「ハ」ハハフスル經由莫
斯科ニ急行スル日ヲ述ベル上油由ハ十分將
來見込ニテリトテ現状ニ於ケル日本側ノ努
力ヲ稱揚シ之ニ及レ島田ニ聞レテハ「ツ」エ
「日」ガ「ソ」イ「若」日本占領以來更ニ規模迄
「報」光「シ」テ現状ハ手工業類ニ此ノ兩港ハ將

MT 1710371 033

來トモ輸出數量少ナレモ日本トシテハ「ソ」
ク「ソ」用「ソ」シ「テ」之ヲ保有スル必要アルベキ
他ノ諸炭ニ至リテハ炭倉日本内地ノモノト
同様ナレバ日本側トシテ「露」國側ニ之ヲ要求
スル理由薄弱ナリ「ウ」ラ「ジ」エ「ロ」フ「カ」ノ中炭
炭田ハ野嶽嶺「國」ニ豊富ニシテ「炭」質又
良好ナルヲ以テ「露」國ノ築港ヲ條件トスルカ
其他高價ナル代償ヲ得テ採掘セシムルコト
トナラン右築港費ハ利権業者史ニ負擔
セシムルコトハ無理ニ付其ノ半額ハ勞農政府
之ヲ負擔スルベシト云フ尚余「ト」シ「テ」其「語」不
同各官軍北京交渉ノ際八月二十九日附覽書ニ

MT 1710371 034

南シ伯^{同大} 特ニコトケ五リンノ命ニ依リ浦塩ヨリ
莫斯科ニ赴キ親シクコトニ意見ヲ述ハタル
コトルケル事
大使ノ轉電也

MT 1710371 035

1-1966

8299 友

西港建設
有者夏節

大正十四年八月廿日

モスコー

勸業外務大臣 島田徳信 代理

第二一〇号

往電第一九九號 閣下

八月十九日アハルニ、將來ノ利権世帯者ノ
利害ニ直接關係アル問題中、客年八月
二十九日付調書所載ノ問題ニ限り利権
世帯者ノ為メ有利ニ解決セラル得ハキモ
ニシテ其以外ノ問題ニ至リテハ地方官官廳
ニ解決ノ權限ナキ次、第ナルガ高工局長ト

MT 1710371 036

ニテトノ間ニ既ニ口約モ成立シ居ルヲ以テ
右見解ニ三葉ニ思ヒテ同意思ナカレハ
尙借地契約ヲ締結スルニ法ニ依リテ在側ガ
莫斯科ヲ於テ將來ノ為メ自己ノ希望ヲ
述ブル事ヲ妨グルモノト申出テ居リ存
件ニ付莫斯科ヲ清洲セラトセズ、寧ろ在件
西港海岸地区使用問題ハ現在ノ利権地
域ニハ空地水帯ニテナキ間、信カ上必然起ル
問題、即チ利権ニ直接關係アルモノナシハ右
地区ノ利権区域ニ當然包含セラル事、必要
ト存スルニ付右様御了承アリテ、右地ニテハ
兎ニ南利権契約迄引張りタキテ存ハスルモ

MT 1710371 037

1-1966

書高工之同加独五會計ニテ在代リ各官吏ノ
俸給ト爲シ庶几國信ト是方ハ物事ニ強硬ナリ。
大使ハ輕電セリ。(2)

MT 1710371 038

1-1966

電信課長

大臣

次官

書

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約 對支文化

1910

件名	綴込名
	サハシニカノ様

改一

函港 茂

大正四年九月壹日 記録係 接受

幣外務大臣

島田總領事代理

第二一五号

往「漢」一九五号「フシヤコ」一行廿二日「ホーワ」
丸「ア」の「オ」の「大」の「函」の「館」の「由」の「由」の「地」の「向」の「ハ」の「果」
「西」の「ア」の「リ」

MT 17103/1 039

1-1966

AMBASSADE
DE L'UNION
DES RÉPUBLIQUES
SOVIÉTISTES SOCIALISTES.

Tokio, le

普 1925
第 134 號
14.8.29

150/576

歐
米
局

夏
日
丁

L'Ambassade de l'Union des Républiques Soviétistes Socialistes a l'honneur de porter à la connaissance du Ministère Impérial des Affaires Etrangères que M. Nicolas Houdiakoff, chef de l'expédition géologique du Sakhalin, du Nord, M-me Claudie Houdiakoff - son épouse, M. Alexandre Barchevsky et M. Nicolas Abazoff, membres de l'expédition, sont à partir le 31 Août de Tokio par voie de Fusan-Antung, se rendant en l'URSS.

L'Ambassade de l'Union prie d'en informer les autorités compétentes et de les rendre assistance au cours de leur voyage sur le territoire japonais, - en particulier au M. Houdiakoff, ayant avec lui les documents officiels de l'expédition.

Tokio, le 29 Août 1925



Au Ministère Impérial
des Affaires Etrangères,

En ville.

元
丁
ノ
下
ノ
下
ノ
下
ノ
下

2/

MT 1710371

041

1-1966

公 ● 信 ● 案
文書課 長 文書課 長 検 印
大正四年八月廿九日接受

文書課發送 大正四年八月廿九日發送濟

淨書 正校(原稿) 終(淨書)

主 任 歐米局長
主 任 歐米高第課
大正 14 年 8 月 29 日 附 屬 書

受 信 湯淺 内務次官
向大 野 佐 官
下岡 朝鮮總督府政務總監

件 名 労農利権調査隊長「フジアコ」
一行ニ対スル便宜轉送方ノ件

今般在本邦「ソウエ」縣邦大使館ヨリ北樺太ヨリ歸ルノ途

次本邦ニ返来セル労農利権調査隊長ニコラス、フジアコ、

同人等「クラウダエ」フジアコ、アレキサンデル、バルン左フスキー

MT 1710371

042

追考ハ
朝鮮總
督府へ
送付ス

及ニコラス、アバソフ、四名ハ八月廿一日東京出發 朝鮮
經由歸ルニ付便宜轉送アリキ事等 然ルニ次方有リタル
ニ付右の然由手紙相宛ル
追而フジアコ、携有スル調査資料ハ檢閲セラルル
處ハ大体ナカレシト在亞港島四總領事分現ヨリ人
ニ申傳(スル等ニ付在由合置相宛ル

MT 1710371

043

文書課長

大正十四年九月廿一日

(甲) 號用紙

文書課發送

淨書

正(原稿)

(淨書)

主 管 歐米局長

主 任 歐米局長

歐一機密第一

大正十四年

八月廿八日

附屬書

通

受信 人名 湯浅内務次官

發信 人名 出淵次官

件名 農利権調査隊長「フジアコ」
東邦ニ因スル件

名 込 綴 八二二一...

本件ニ因シ本月七日附歐一機密第一四三號ヨリ及通報里夕
ルニシテ般在臣境島勿細依事ハ理ヲ「フジアコ」一行
ハ廿二日「ポーワン」丸ニテオハ發大泊函館經由東京ニ向ハル

公 信 案

外 務 省

MT 1710371 044

要再回

(乙) 號用紙 圓納

ナニモ電報アリシニ付右ニ通報ス

MT 1710371 045

外 務 省

1-1966

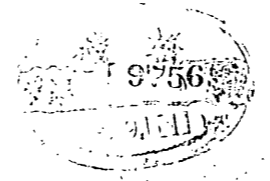
歐米局 五
外秘第二二六二號

大正十四年八月二十九日

警視總監 太田 政弘

内務大臣 若槻禮次郎殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
指定廳 府縣長官 殿

樺太地質調査隊一行入京ノ件



帝國ホテル止宿
北樺太鑛山地質調査隊長
ニコライ、フジヤコフ
妻 同伴

秘書 ニコライ、アバゾフ
技師 ア、バツシエヴスキー

右一行上京ノ旨昨二十八日北海道廳ノ電報ニ依リ注意中
今日午後四時十分上野驛着入京ノ旨書止宿中ナルカ
日露細目協定会議ノ関係ニテ至急帰國シタキ旨ヲ語り
居レリ

入京後新聞記者團ヨリ會見申込ヲ受ケ、北樺太ニ於ケ
ル石油、石炭ノ産出高、二細目協定ニソウエト政府側自派
側ニ要素^{註要素}ニ北樺太利権會議ニ関スル意見等ヲ徴サレ
タルニ對シ本日「ステートメント」ヲ發スヘシト稱シ居タリトナフ
本日ハ露國大使館ニコップ大使ヲ訪問會見數時間ニテ帰宿
セルカ向モナク北辰會ヲ訪問スヘシト稱シ居タリ
尚一行ニ海軍省嘱託 松井忠太郎同行セリ
右及申(通)報候

MT 1710371 047

MT 1710371 046

625

1-1966

至急

即期送付
下上係
宛先送付

新聞

文書課長

大正十四年九月貳日 接獲

歐米局長

歐米局長

浄書 林正原

ソビエト聯邦北樺地方地産油産改良「ニコラス、フジアコフ」同

氏「クラウティエ、フジアコフ」並同改良「アレキサンドル、バルビエフ

スキム」及同「ニコラス、アハツフ」ハ

帰おスモナルニ付同氏ホリ地産油産改良ノ際ハ

借財ツセシムトシ其財ノ借財ノ旨ヲ

大正十四年九月日

外務省

外務省

MT 1710371

048

1-1966

Urgente

AMBASSADE
DE L'UNION
DES RÉPUBLIQUES
SOVIÉTISTES SOCIALISTES.

Tokio, le 192

152/578

印
付
了

普
通
受
簿
35
14.9.1

歐
米
局

36

お

En se referant à sa note No 150 en date du 29 Août, concernant le départ de membres de l'Expedition Geologique du Saghalien du Nord, cette Ambassade a l'honneur d'informer le Ministère Impérial des Affaires Etrangères que M. Houdiakoff avec M-me Houdiakoff, M. Barchevsky et M. Abazoff ne partiront qu'aujourd'hui, le I Septembre.

En outre, l'Ambassade de l'Union prie le Ministère Impérial de bien vouloir délivrer un Laissez-passer à M. Houdiakoff, ayant avec lui les papiers officiels de l'Expedition; il est à noter qu'un tel Laissez-passer les a été donné pour leur entrée au Japon par M. Shimada, Consul du Japon à Alexandrovsk.

Tokio, le I Septembre 1925.

Au Ministère Impérial
des Affaires Etrangères,

En ville.

散 26

MT 1710371

049

1-1966

密
受領 9279
1912

特高 秘書 第六十八號
大正十四年八月二十九日
北海道廳長官上岐嘉平

内務大臣 若槻禮次郎 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
陸軍大臣 宇垣一成 殿
海軍大臣 財部彪 殿
指 定 廳 府 縣 長 官 殿

樺太嶺山地質調査員ニ關スル件

莫斯科市スダゴホスライ、
薩哈連嶺山地質調査隊長
ニコライ、アブラモヴィチ、フゲヤコフ
35年

妻 クラウシヤコレウナ 當ホ35年同伴
コーカサス縣ガレイ市 調査隊員

油田要調査師 シライ、アハソフ 當ホ35年
莫斯科市ヤウスカヤ、合上

大學生、アレキサンドル、バルシケフスカー 28年

右者紫渡来上表ニ關シテハ本月十七日日本
已報(内相、外相、警視總監ノミ)及翌ニテ八日

電報(内相、警視總監ノミ)セルカ前記隊
長(フレイマク)ハ管下ニ於テ當廳視察員ニ
対シテ左ノ如ク語レリ
右及申(前)報候也

自也ハ日露基本條約ニ依ル綱目決定會議

MT 171037 051

MT 171037 050

觀テ其ノ食カ多クニ居ル感ヲ起シヨリ
之レ人口ノ増加ニ伴フ。世然ノ結果ト觀出第セ
アル。コト以テ日露親善ヲ益リ存テクニ廣漠
ナル自由ノ天地西比利亞ニ移住シ露國ニ對
シ經濟的援助ヲ爲シ開拓ヲ爲ス。旣テハ西
國ノ益亦知恩大ナルシ

一北極太ノ開發ノ爲メ後任ヨル日本人ハ日本
軍撤兵ト共ニ大部分飯國ニタルハ日本新聞
カ露國ヲ諷解セル宣傳ニ依ルモノニ甚ク
覺感ナリ。遠ハ日本カ北極太開拓ニ努
力シテ効果ヲ北極ニ飯セル開拓ノ曙光
ヲ認メ人口増加産業開發ノ道程ニテリシ
ヲ中遠ニシテ挫折セシメタル次第ニシテ新聞

紙ノ惡宣傳ニ依ルコト明ニシテ今後露國
ノ國情等ヲ貫下ヲ通シテ日本國民ニ周知セ
シメ露國ハ決シテ恐ルモノナラズ産業第一經濟
上提携ヲ不ホモノナリトノ理解ヲ興フルヲ得ハ
希クハ兩國民ノ利益幸福ヲ増進シ寂
寥ニ飯セル薩哈噠ノ開發ハ決シテ遠
遠ニアラサルコト信ス

以上

MT

1710371

055

MT

1710371

054

1-1966

歌米局

高第一八九五七號

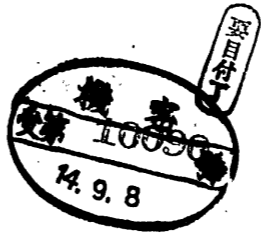
大正十四年九月四日

大正十四年九月九日 記録係接受

山口縣知事 三松武



門	21
類	5
項	
目	



内務大臣若槻禮次郎殿
 外務大臣幣原喜重郎殿
 北海道、青森、警視総監
 兵庫、福井、神奈川
 長崎各府縣長官 殿

労農政府派遣北樺太利権調査隊長
 兩路國人

ニコライ、アキモウイケ、フジヤコフ

A

Nicholas A. Khudiakoff

當三十六年

今人、妻

シラウゲヤ

Khandingya

當二十三年

今秘書

アレクサンドル、ガウリロウイケ、バルシケ、エフスキ

Alexander G. Barshchinsky

當二十八年

今油田技師

ニコライ、セルゲイウイケ、アバドフ

Nicholas S. Abagoff

MT

1710371

057

MT

1710371

056

トモエの日記

當五十一年

右一行ハ客月十日警保局外奈甲第
一二九號警保局長通牒ノ着ナルカ
本月二日第七列車ニテ東京ヨリ未関
直々ニ今十一時奈関釜連絡船昌慶
丸ニテ渡鮮モスユ一ニ向ハルカ當地
通過ニ際シテハ相當便宜供與ニ
置キタリ

右及申(通)報候也

B

MT

1710371

058

1-1966